

党運営・政権奪回について

1. もう中堅・若手中心で行動させて下さい！派閥均衡、派閥順送り人事、密室談義はもう終わりだ。私が総裁になれば、派閥解消、直ちに強い執行部をつくる。さらに、中堅・若手中心に「シャドー・キャビネット」(次の内閣)を作り、各シャドー大臣(次の大臣)の下に、農政なら農政、防衛なら防衛、少子化対策、経済対策などのチームを作り、官僚に頼らず、自分たちでみっちり理論武装・政策立案し、国会論戦を仕掛けていく。そして、その国会論戦の最前線には、中堅・若手が立つ。自民党にも「結構いい若手がいるじゃないか」と、自民党が変わった姿を国民の皆さんに是非見て頂きたい。

2. しかし、若手だけですべてできるとは思わない。私の最大の弱点は「経験のなさ」だ。あの私のライバル・(1才年上の)オバマ大統領も、副大統領にはベテラン・重鎮のバイデン上院議員を起用した。やはり、若さや経験不足をカバーしてもらおう先輩も必要だ。衆参合わせてたった200人になったのだから、こんな表現は先輩には全く失礼であるが、あえて言わせて頂くと「使える人は誰でも使う」方針だ。しかも、敵はあの小沢一郎幹事長である。百戦錬磨、手練手管の相手である。中堅・若手が最前線で行動の中心になりながらも、老壮青を適材適所に、一致結束して挑みたい。

3. そして、次の衆議院選挙で政権奪回するためには、今回の選挙で惜しくも涙を飲んだ皆さんに踏ん張ってもらわなければならない。大変なことだと思うが、そうでないと、次回選挙で自民党は過半数を取れない。政党助成金も減り、限られた資源の中ではあるが、次回選挙での勝利を目指して歯を食いしばってガンバル候補者に、より多くの資源配分をしたいと思う。そして、来年の参議院選挙、翌年の統一地方選挙と、衆議院の候補者も含めて全ての候補者が一体となって活動し、相乗効果を生み出したい。そのためには、まず、

参議院選挙だ。勝てる候補者を選び、勝てる体制を整備しなければならない。喫緊の課題である。私は、世襲議員でもなく、かつ落選経験もある。自分自身が一人で後援会を立ち上げてきた経験も踏まえながら、しっかりと選挙支援態勢を整えたい。